

▶ 下関商業高等学校 様

〈公立高校〉 2025 年 全学年で導入

1 学年 5 クラス (160 名)、2 学年 5 クラス (155 名)、3 学年 5 クラス (152 名)

〈担当教諭〉 桐原 美紀先生、市河 直子先生、山本 和樹先生、田久保 璃子先生、武田 敬子先生

【Brains 導入教材】

- 1・「デジトレ全商英検対策 3 級、2 級、1 級」
- 2・「AI Speaking Pro」
- 3・「AI Writing Pro」

デジトレ全商英検対策 3 級、2 級、1 級

【3 級合格率 98%を達成 (1 学年)】

2025 年 9 月の全商英検では、1 学年 151 名中 148 名が 3 級合格 (合格率 98%)、12 名が 2 級にもダブル合格。例年よりも不合格者が大幅に減少し、確実な成果が見られた。

1・〈学習計画表の作成と実践〉

週末課題や長期休業中に全項目を完了できるよう学習計画表を作成し、中間考査前・期末考査前・2 学期開始時に進捗を確認。

計画表に則って学習している場合は、「主体性」に点数を反映させた。

Brains では進捗を日付指定で確認できるため、「期限内完了のみ加点」という一貫したルールが徹底できた。その結果、生徒に期限遵守の習慣が根付き、ほぼ全ての生徒が 100%を達成した。

週末課題予定表 (9月 : 全商英検まで)		
Brains e-Learning 全商英検対策問題集 以下のスケジュールで週末に全商英検対策 (9月) を行います。 進捗に遅れることが無いように、しっかり対策をしましょう。 なお、皆さんの学習の進捗状況はシステム上で管理され、 学期ごとの【観点別評価 (主体的に学習に取り組む力)】に反映されます。 各実施期限までに、予定された範囲の問題を解き終わらせてください。 学習ペースが予定より進めることは問題ありません。 どんどん先に進んでください。		
実施期間	4月 13日	【1学期の観点別評価】 重要英単語 (300) 単語 1 〜 100 (2 クラッシュ入力) を実施 【総復習】が全てクリアになって初めて終了
	5月 8日	
	1学期中間考査	
実施期間	5月 22日	【2学期の観点別評価】 重要英単語 (100) 単語 101 〜 200 (2 クラッシュ入力) を実施 全商英検過去問題 1 回分 (令和 6 年の 8 月分、もしくは 12 月分) 全問題の【総復習】が全てクリアになって初めて終了
	6月 17日	
	1学期期末考査	
実施期間	7月 2日	【2学期の観点別評価】 重要英単語 (100) 単語 201 〜 300 (2 クラッシュ入力) を実施 全商英検過去問題残り 4 回分 全問題の【総復習】が全てクリアになって初めて終了
	9月 6日	
	2学期中間考査	
実施期間	全商英検 本番！【9月7日 (日)】	
	女子 1 い賢 るこ と興 だの のさ る取 りい うへ う組 なみ と時 間 全方 向は の記 録後 半 数 解き べと れ るま づ 力 の 順 に だ べ な タ ン の を ク リ ー ン 続 ツ ク に し て	

2・〈学習時間の増加と学習効率〉

デジトレは、タブレットだけでなく生徒本人のスマホ等でもログインできるため、時間や場所の制限がなく、学習機会が増えた。

また、記憶が定着するまで何度も繰り返し学習できることが魅力であり、学習効率の向上につながっている。

3・〈圧倒的にリスニング力が向上〉

音声に関しては単語の発音 1 つとってもデジトレだけで完結でき、これまで紙教材では難しかった音声学習が容易になった。デジトレで学習することで、リスニング問題やスピードに慣れ、検定本番のリスニング力向上に直結した。

4・〈教員の業務が大幅に削減〉

紙教材では回収・採点・返却に多くの時間がかかっていたが、デジトレ導入後は、進捗確認がすべてオンラインで完結。教員の業務時間を大幅に削減できた。

その分、達成が遅れている生徒に Brains の メッセージ機能で声かけし、必要に応じて放課後に一緒に取り組む機会を設けるなど、個別フォローに時間をあてられた。

生徒同士も学習時間を話し合う姿が見られるなど、相乗効果が生まれていた。

また、4月の入学当初に行った【課題考査】で得点が80点以上の場合は、3級の問題集ではなく2級の問題集の購入を勧めた。このように、個の学力に沿うような形で学習できるシステムなので、学習効率も上がっていると感じる。

AI Speaking Pro

1・〈音読指導の量と質が向上〉

教科書の各課最後の音読課題や、夏休みの課題として活用。

生徒にとっては、人前での発表よりも取り組みやすく、各自興味を持って積極的に取り組んでいる。AIによる即時採点とフィードバックが行われるため、結果に納得いかなければ何度でもチャレンジでき、粘り強く音読練習に取り組む姿が見られた。

録音データはすべて自動保存され、教員は必要な箇所だけを確認すればよいので、採点・記録業務の負担が大幅に軽減。音読テストを無理なく増やせるようになり、指導の質向上と学習量拡大を両立できた。

AI Writing Pro

1・〈AI 添削によって表現の指導に集中〉

AIが文法やスペルミスを即時に指摘し、生徒はその場で確認ができる。

教員は、添削・確認に費やす時間が削減されたことで、AIが提示した結果をもとに、英問英答や表現面の指導に集中できるようになった。

1年生にとってはタブレット操作やタイピングが新しい挑戦だったため、入力中に時間切れにならないよう、制限時間の設定を工夫した。

この活動を通して、生徒が徐々にタイピング操作に慣れていくことで、より正確に Writing 技能を評価できていると感じている。

